

授業における復興教育・防災教育の推進

～各教科・領域と復興教育・防災教育の関連付け～



被災地見学(仙台市)～祈りの塔への献花～
[奥州市立衣川小学校]



クロスロード研修会
[県立沼宮内高等学校]



災害ボランティア活動
[県立葛巻高等学校]



岩手県立総合防災センターでの放水体験
[県立盛岡峰南高等支援学校]

はじめに

平成23年の東日本大震災津波の教訓と、近年、県内でも発生しているゲリラ豪雨や竜巻等、さらには平成28年に発生した台風10号豪雨災害等の状況を踏まえ、児童生徒が自然災害に際し自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度」を育成するために文部科学省の「実践的防災教育総合支援事業」の委託を受け、実践的な防災教育の推進に取り組んでまいりました。

本リーフレットでは、平成28年度に本事業で取り組んだ実践内容及び県で取り組んでいる防災教育について紹介します。本リーフレットを参考に、日常の教育課程にどのように防災教育を位置づけていくか、系統的・計画的な指導についてさらに充実を図ります。

I 教科横断的な防災教育の実践 ～一関市立本寺中学校～


- ねらい ① 本寺地区で想定される災害（地震、火山、土砂、水害）等について学習し、中学生として地域のためにできることを模索し、実践力を育成する。
- ② 地域の一員として、将来にも役立つことができるような高い防災意識の基礎を築くための学習を推進するとともに自ら進んで考え行動できる力を育成する。

	授業の様子	教科・領域等／ねらい	学習内容等
1		理科・総合的な学習の時間 火山と地震に関する事象・事象に関心をもち意欲的に探究しようとする意欲を高める。日本の主な火山の噴火に関心をもち、それらの成因について考える。	1年理科「自然災害のしくみと災害」 2年理科「世界のおもな災害」 火山の専門家による防災講演会の事前学習として、理科の授業に復興教育(※)の「そなえる」⑰、⑱を関連づけ、災害の歴史やライフラインへの影響等も含めて基礎的な知識を身に付けました。
2		総合的な学習の時間 栗駒山の1944（昭和19）年の噴火について、災害の実態を知るとともに地域の防災に対する意欲を高める。	栗駒山昭和噴火聞き取り調査 当時の様子を知っている地域の方にインタビューし、文章やイメージ画として記録しました。また、磐井川から北上川流域の地図に、証言とともに得た情報を書き込み、被害状況をまとめました。「山鳴りが起こったのが興味深い」（3年男子）
3		道徳・行事 陸前高田市の国道沿いの花壇整備を通して、自主的に行動する態度を育てる。また、被災地に思いを寄せることで震災の教訓を語り継ぐ態度を育てる。	フラワーロード活動・講話「震災時の様子」と震災発生時の行動について 今年で5年目となる本活動の事前学習として、全学年で副読本を活用した道徳の授業を実施しました。また、事後学習として朝読書で副読本を活用しました。「どのように復興して変わっていくか、とても関心が深まりました。」（3年女子）
4		総合的な学習の時間 これまでの学習を振り返り、過去の災害の様子と噴火が起きたときに自分たちができることについて学び合い、自己の生き方について考える。	「栗駒山の噴火を想定した防災学習」の発表会 今年度の学習のまとめとして、学区にある骨寺村荘園交流館で地域の方々に調査結果を伝えました。地域の方も一緒に「そなえる」という視点で考えを共有することができました。

(※)復興教育＝「いわての復興教育」(<http://www.pref.iwate.jp/kyouiku/gakkou/fukkou/index.html>)

II 各学校における防災教育の実践

一 県立大東高等学校一

第1学年（普通科） 第2学年（普通科Iコース、情報ビジネス科） 第3学年（情報ビジネス科）		家庭基礎・家庭基礎探究 家庭総合	【いきる】①、②【かかわる】⑨、⑫ 【そなえる】⑱、⑲、⑳、㉑
〈ねらい〉 正しい情報収集と瞬時の判断の重要性について理解する。非常時に役立つ知識・技術について知り、非常時持ち出し品を準備することの意義について理解する。	1時間目に気象庁提供のワークショップ教材を用い、非常時の家族の行動についてグループで考え、正確な情報収集と判断の重要性について学習しました。さらに、2時間目以降で防災食（アルファ化米）の試食、古新聞を活用した簡易トイレの製作、「炊き出し実習」を行いました。		

学校名	花巻市立新堀小学校	八幡平市立西根第一中学校	二戸市立浄法寺中学校
授業の様子			
教科等	第5学年 総合的な学習の時間	第3学年 特別活動	全学年 総合的な学習の時間
復興教育	【そなえる】⑳「身を守り、生き抜くための技能」	【そなえる】⑳「学校・家庭・地域での日頃の備え」	【そなえる】⑮「東日本大震災津波の様子と被害の状況」
ねらい	災害が起こる仕組みの理解をもとに身を守るための方法を考え、普段の生活に生かし災害に備えることができる。	災害時の地域安全について理解を深め、防災活動に自ら積極的に関わろうとすることができる。	東日本大震災時の沿岸地区の実際を知るとともに、災害から身を守る知識や判断について学ぶ。
概要	総合的な学習の時間に、地震が起こる仕組みを学習し、それをもとに校舎や家での危険箇所をチェックする活動を通して、非構造物の危険性や自分の身を守る場所について考えを深めました。調べ、考えたことは、児童集会で発表し、全校児童が避難する際の啓発につなげました。	避難所運営HUGを使った机上訓練、ポリエチレン袋を使用した炊き出し実習、1・2年生を避難者と仮定した避難者の受け入れや疾病者の処置、支援物資の配布等を行いました。災害時に自分たちができることは何かを実践を通して考えることができました。	震災学習列車の体験をしました。普代駅から三陸鉄道に乗車し、久慈駅に向かいました。列車内では各車両においてガイドさんから震災時の状況や体験談、防災や減災に役立ったお話を聞きました。また、往復の道中にはJRC委員会が「防災クイズ」を出題し、学習を深めました。

Point!



- ・各教科、領域における単元全体及び本時のねらいを明確にする
- ・復興教育の3つの教育的価値と具体の21項目との関連を図る
- ・教科等横断的な視点に立った学習を推進する
- ・学校、家庭、地域、関係機関等の連携を図る

Ⅲ 県防災教育研修会 ～学校・市町村防災担当者等の連携～

小・中・県立学校の管理職と市町村教育委員会指導主事、市町村防災担当者等が一堂に会して、地域の実情に応じた災害対応について話し合いました。



〈イメージトレーニング型訓練の様子〉

【県防災教育研修会後に各校で見直した具体例】

- 学校安全計画の見直し
- 危機管理マニュアルの見直し
- 教職員研修の改善、充実
- 保護者引き渡し訓練の実施 等

2 台帳（生徒在宅時）

台帳の管理は各学年で行われ、連絡先の記入は保護者から提供される。また、台帳は定期的に更新される。

【改訂前】

文字が多く使いにくい...

【改訂後】

フローチャートで見やすく、かつ小学校と連携して改訂

研修したことをもとに、各学校で取組の見直しを図りました。




IV 防災教育と「こころのサポート」 ～岩泉町立小本小学校～

〈災害安全に関する内容〉 ～「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育～

ア 火災発生時における危険の理解と安全な行動の仕方
イ 地震・津波発生時における危険の理解と安全な行動の仕方
ウ 火山活動による災害発生時の危険の理解と安全な行動の仕方
エ 風水(雪)害、落雷等の気象災害発生時における危険の理解と安全な行動の仕方
オ 放射線の理解と原子力災害発生時における危険の理解と安全な行動の仕方
カ 避難所の役割と避難経路についての理解、避難の仕方
キ 災害に関する情報の活用や災害に対する備えについての理解
ク 地域の防災活動の理解と積極的な参加・協力
ケ 災害時における心のケア

安全教育の「災害安全」領域に関する内容には、「心のケア」も含まれています。防災教育を進めるうえでは、児童生徒の「心のケア」にも十分配慮して行うことが大切です。

第6学年 体育	保健(1)心の健康及び不安、悩みへの対処について理解できるようにする。
いわての復興教育	【いきる】⑥「心の健康」 〈副読本〉高学年用P18～19
本時のねらい	日々の生活でストレスや不安を感じたときに、すぐできる対処法を学び、自分自身で心の健康を維持しようとする態度を育てる。
	緊張や不安を感じたときの対処法についての交流の中で、子ども達は「親に話をする」「安心する場所のにおいをかぐ」など、それぞれの対処法をもっていることがわかりました。それに加え、本時では呼吸法による対処法について学習し、心と体が深くかかわっていることを体験をととして学びました。
	5・6年体育【G保健】の内容には、「イ 心と体は、相互に影響し合うこと」、「ウ 不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなど いろいろな方法があること」があります。～小学校体育学習指導要領解説体育編～

V 学校防災アドバイザー派遣事業

◎内容：岩手大学、盛岡地方気象台等の防災に関する専門家を派遣し、職員研修や児童生徒への講話や演習等を実施

【H28派遣実績】 幼1校、小8校、中11校、県立10校、その他1 計31校
【H28派遣例】 (事務職員研修1)

学校名	派遣アドバイザー	対象	内容
釜石市立小佐野小学校	盛岡地方気象台 (地震津波防災官)	防災担当教員	マニュアルの見直し
紫波町立日詰小学校	盛岡地方気象台 (水害対策気象官)	5年児童	気象災害講話
岩泉町立釜津田中学校	地域防災サポーター	生徒、教職員、保護者	気象災害、山火事
県立大船渡東高等学校	岩手大学特任助教(防災)	教職員(研修)	避難所運営



アドバイザーと実地踏査する沼宮内高生

◎主な内容 ・地域で想定される自然災害についての講話 ・防災マップ作成等の演習 ・避難所運営研修
・緊急地震速報を活用した実践的な避難訓練 ・危機管理マニュアルの作成について 等

VI 防災教育とカリキュラム・マネジメント —総合的な学習の時間を例に—

教育課程全体における総合的な学習の時間の役割とカリキュラム・マネジメント

総合的な学習の時間において、学習指導要領に定められた目標を踏まえて各学校が教科横断的に目標を定めることは、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの鍵となる。
総合的な学習の時間は、目標や内容を各学校が定めるという点において、各学校の教育目標に直接的につながる。特に、高等学校では総合的な学習の時間がその学校のミッションを体現するものとなるべきである。
(平成28年12月21日 中央教育審議会答申より)